

『時事直言』 No.651 2011年5月6日

時事直言ホームページ：<http://chokugen.com>

時事直言 携帯サイト：<http://mobile.chokugen.com>

FAX：03-3955-6466



時事評論家 増田俊男

テロ活動が続いてもアメリカのテロとの戦争は終わった！

イスラムのテロ組織の象徴的指導者であったウサマ・ビンラディン（54歳）は5月1日（ワシントン D.C.時間）米海軍特殊部隊（SEALs）によって殺害された。ビン・ラディンは無防備であったのに何故か（当然だが）射殺されるや急いで海に葬られた。1998年8月8日アフリカのケニアとタンザニアの米大使館が同時に爆破された。アメリカは、犯人はビン・ラディンを最高指導者とするアルカイダであると断定し、爆破から約10日後9人のアルカイダのメンバーを容疑者として逮捕、その後身柄をNY地検に移した。アメリカは2001年9月11日のNYのWTC（ワールドトレードセンター）とワシントン D.C.の Pentagon（国防総省本部）の同時爆破もビン・ラディンを首謀とするアルカイダの仕業と断定した。ケニアとタンザニアの米大使館爆破後、クリントン大統領は報復措置としてビン・ラディンが指揮するというアフガニスタンのアルカイダ軍事訓練場と、同じくビン・ラディンが運営するというスーダンの毒ガス工場をミサイル攻撃した。私の友人（スーダンの大統領関係者）から爆破されたのは栄養剤を作っている大手製薬会社でビン・ラディンにはいささかも関わりがないこと、またアフガニスタンで攻撃されたのはアルカイダの軍事訓練場ではなくタリバン政権の軍事施設であったことを知らされた。私は自らスーダンに赴きミサイル攻撃された薬品工場を調べた結果米国の発表は根も葉もない虚偽であることを知った。米大使館を爆破した爆薬は世界で最も強力かつ危険な高性能化学薬品で、扱える国は世界で2カ国（米国は含まれない）しかないことが専門家による残骸の分析結果からわかった。米大使館爆破に使われた爆薬は到底アルカイダが扱えるような代物ではなかったことからケニア・タンザニア米大使館爆破の犯人はアルカイダではないことは明白であった。2001年2月（時事直言）と同年8月にホノルルで行った私の経済セミナーでセプテンバー・イレブン（9月11日）を事前予告出来たのは同年9月12日に前述の9名の容疑者（大使館爆破）の裁判がニューヨーク地裁で開かれるニュースが小さくNYの新聞に出ていたからであった。私は9名の容疑者の弁護士に会ったこともあり、もし裁判が開かれたらアルカイダは犯人ではなくなり、アルカイダを世界の敵に仕立て上げアメリカのテロとの戦争に世界を巻き込みアメリカが戦争を主導しようとするシナリオが頓挫してしまう。私は、アメリカは9月12日（裁判日）前に必ず何らかの手を打つと確信していた。案の定9月11日早朝からWTCで翌日（12日）の裁判の打合せをしていた約20名の弁護士と証人、さらに9名の容疑者の無罪を証明する証拠物件もろともこの世から消え去ることになった。

アメリカにとって国益になる真実は事実だが国益にならない真実は事実になり得ない。

何故 2011 年 5 月 1 日か

CIA がビン・ラディンの隠れ家を知ったのは 2010 年 8 月であったからオバマ大統領は SEALs(米海軍特殊部隊)に何時でもビン・ラディン殺害命令を下すことが出来た。アメリカは 2001 年 9 月の同時多発テロ直後予定通り「テロとの戦争」を宣言し、タリバン政権がビン・ラディンをかくまっているとしてアフガンに侵攻した。アメリカはイラン・イラク戦争(1980 年 9 月 22 日から 1988 年 8 月 20 日)でイラクを経済、軍事支援し、イラクに大量破壊兵器製造工場を作りイラク軍養成を行ったので CIA はサダム・フセイン大統領よりイラクの軍事施設と兵器の配置状況に詳しかった。従って 2003 年までに CIA と国連査察団の指揮のもとでイラクの大量破壊兵器は完全に破壊されたのだった。それを承知の上でブッシュ大統領はサダム・フセイン大統領に「48 時間以内に大量破壊兵器を出さなければ軍事攻撃する」と宣言、サダム・フセイン大統領は応じたくても応じられないので「ないものは無い」と答えたので、待ってましたとばかり 2003 年 3 月 20 日米軍はイラク総攻撃を開始、首都バグダッドは火の海と化したのであった。イラク侵攻前にサダム・フセイン大統領との契約のもとにフランス、ロシア、中国に与えられていた膨大なイラク油田の発掘権をアメリカは取り返し、イラクの油田を 100%コントロールすることに成功した。1979 年のロシアのアフガン侵攻により 10 年間続いたアフガン戦争でアメリカはビン・ラディンのアルカイダを資金、軍事支援した。イラン・イラク戦争時のイラクと同様である。アメリカは泥沼化したベトナム戦争で国力を落とした経験からソ連を崩壊に追い込むためソ連をアフガン戦争に誘導し長期戦に追い込んだのである。実際アメリカの計略通り 10 年戦争で疲弊したソ連はアフガン戦争終了の 2 年半後の 1991 年に崩壊した。1998 年 8 月からアメリカはかつての盟友ビン・ラディンとアルカイダを敵に仕上げ、Remember WTC!(WTC を忘れるな!)と叫びアメリカ国民の大喝采を受け「テロとの戦争」を世界に宣言し 20 カ国以上の友好国を巻き込んでアメリカの中東侵攻を正当化したのであった。

アメリカにとってテロとの戦争を続けている限り、またテロとの戦争がアメリカの中東支配に有効である限り、敵であるビン・ラディンとアルカイダの存在は欠くことの出来ない要因であった。アメリカにとってビン・ラディンは表向きには懸賞付きお尋ね者であったが実際は保護こそすれ殺害などんでもない存在であった。結局アメリカはテロとの戦争を通してアフガンとイラクを事実上支配下に置くことに成功した。そして今度はイスラエルの安全と国益のため現在の中東独裁国家(大きな国家)を民主化して弱体化させることになった。アメリカは 2011 年年初からチュニジア、エジプトの民主革命支援に成功し、今や民主運動はドミノ現象となって中東諸国に広がっている。テロとの戦争の目的が達成された今、次なるアメリカの中東政治戦略は中東諸国の解体的民主化に切り替わったのである。従って最早不要になったビン・ラディンには 5 月 1 日を期して消えてもらったという訳である。民主化、自由化を信じ愛国のため反政府運動に身を投じる中東の若者たちが、結果的にはアメリカのために命を掛けていたことを知るに至るまでにはまだまだ時間がかかる。

市場にも「大事件」が起きようとしている。もし読者の皆様と Face to face でお会い出来る機会があったら、アメリカとしては「事実」と認めたくない「真実」をお知らせしたいと思っている。

大好評配信中! 増田俊男の「ここ一番!」

「ここ一番!」はここ一番のタイミングにアドバイスをお送りする増田俊男のニュース・レター。「投資家の友」として親しまれています。「危ないところを救ってくれてありがとう」、「儲かってます!」などなど好評です。読者の特権としてご質問に増田が即答します。

お問合せは、(株)増田俊男事務所 TEL:03-3955-6686 まで

「時事直言」の文章及び文中記事の引用をご希望の方は、事前に株式会社増田俊男事務所 (Tel.03-3955-6686) までお知らせ下さい。